

## 第5 | 成長戦略

「元気なあきたの創造」「元気を支える基盤づくり」のテーマのもと、六つの成長戦略を設定します。戦略ごとの重点プログラムに基づく具体的な事務事業は、推進計画に位置づけます。

### 戦略1

## 都市イメージ 「ブランドあきた」の確立

### 背景

秋田市のイメージが高まれば、人や企業の定着と交流を促すことにつながります。イメージを高めるために、元気な秋田市を広く市内外に発信していくことは、人や企業の定着や交流をはかる他の戦略と相まって、さらなる成長を促進します。

本市には、日本海沿岸の中核都市として発展してきた歴史とはぐくんできた文化、陸・海・空の交通拠点機能など、真に都市圏の核となる機能を備えた都市としてのバックボーンがあります。

一方で、なまはげや米といった秋田県全体のブランドイメージに埋没しがちなことや、まちの顔である中心市街地の空洞化などにより、現在は秋田市の元気を十分にアピールできていません。

今後は、芸術・文化をはじめとする様々な資源を活用しながら、「にぎわい」や「秋田らしさ」を創造し、本市のイメージアップをはかる必要があります。

### 戦略の 方向性

- 秋田市オリジナルのイメージの確立
- 市民が誇れる魅力あるまちづくり



重点プログラム

- I まちの顔づくり
- II 芸術・文化によるまちおこし
- III 秋田市ブランド商品の開発と振興
- IV クラブスポーツへの支援



## 戦略2

# 地域産業の競争力強化

### 背景

産業経済基盤を強化することは、地域の活力やその源泉である市民の活力を高め、本市の成長を牽引します。

本市の産業は、経済不況による消費動向の変化などの影響を受けて力強さに欠けていますが、将来的に発展を遂げる大きな可能性を秘めています。

例えば、中国・ロシア沿海地方に近接する地理的優位性や豊富な農業資源、優れた環境リサイクル技術、恵まれた条件を兼ね備えた風力をはじめとする新エネルギーなどです。

外部環境の変化に対応しながら、こうした潜在力を戦略的に引き出して地域産業の競争力を高め、市民生活を支える雇用の創出と市民所得の向上をはかる必要があります。

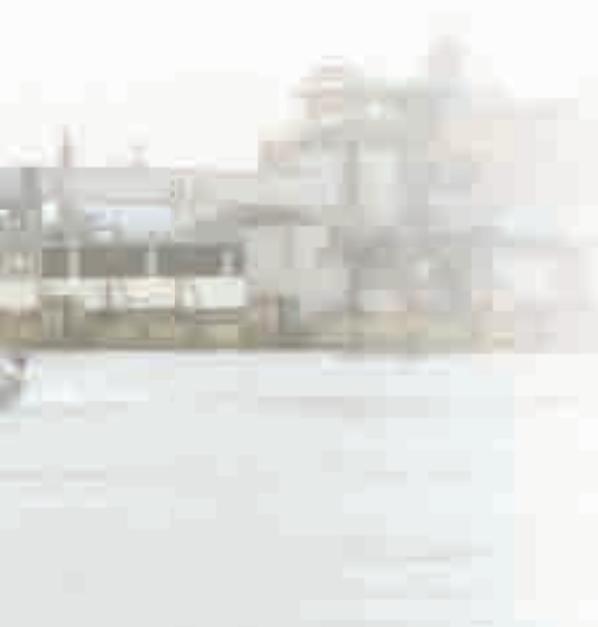
### 戦略の 方向性

- 新たな経済活動の創出
- 地元企業の育成と物流の活発化



重点プログラム

- I ビジネスチャンスをとらえた産業の創出
- II 環日本海貿易の促進
- III 戦略作目※による新たな農業ビジネスの展開



※ 稲作依存型の農業構造からの脱却と、農家所得の向上・安定化を目指し、本市が県やJA等関係機関と連携し、戦略的に生産振興をはかることとする作目。「園芸作物」を戦略作目とし、本計画策定時点において、ほうれんそう、ねぎ、こまつな、ちんげんさい、しゅんぎく、ブロッコリー、アスパラガス、レタス、キャベツ、えだまめの10種の野菜と、花きについてはダリアを設定している。

### 戦略3

## 観光あきた維新

#### 背景

観光産業は、経済効果の裾野が広い上、交流人口の増加により地域の活性化につながることから、様々な波及効果をもたらす期待度の高い成長分野です。

本市には、全国的な知名度を誇る秋田美人、千秋公園や大森山動物園などの観光スポット、多彩な食文化など、有形無形の魅力ある観光資源が数多く存在しています。

しかしながら、そのような魅力を磨き上げ、一年を通して多くの観光客に滞在してもらうためのしなげづくりや売り込み方に工夫の余地があります。

旅行者のニーズに的確に対応し、新たな視点と柔軟な発想によるオリジナリティあふれる観光戦略を打ち出し、市外から人を呼び込むことが必要です。

#### 戦略の方向性

- 観光都市としての魅力創出
- 交流人口増加による経済活動の活性化



**重点プログラム**

- I 秋田市ならではの観光戦略構築
- II 観光資源の発掘、磨き上げ
- III セールスプロモーションの強化



## 戦略4

# 環境立市あきたの実現

### 背景

地球温暖化対策には、脱温暖化をキーワードとした環境ビジネスというもう一つの側面があることから、環境分野は発展の新たな鍵となるポテンシャルの高い成長分野です。

我が国では、温室効果ガス排出量を大幅に削減する目標を掲げており、本市においても、「秋田市地球温暖化対策実行計画」に基づき、総合的な取組を推進しています。

本市は豊かな自然環境に恵まれているものの、これまで温暖化対策と地域産業の活性化を両立させるという観点から環境分野をとらえた取組をしてきませんでした。

恵まれた環境をいかしながら、様々な環境関連施策を展開し、環境分野における本市のブランドイメージを高め、環境と経済の好循環を生み出すことが必要です。

### 戦略の方向性

- 積極的な地球温暖化対策
- 環境関連の新たな技術などを活用した産業振興



重点プログラム

- I 新(省)エネルギー設備の導入拡大
- II 環境関連事業の創出
- III 環境付加価値<sup>※</sup>の活用推進



※ 二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しない発電や取組を金銭的価値として評価したもの。

戦略5

## エイジフレンドリーシティ (高齢者にやさしい都市)の実現

### 背景

秋田市を元気にする原動力は人そのものです。したがって、誰もがそれぞれの能力や意欲に応じて社会参加できる環境をつくることは、成長の基礎となります。

2024年には約3人に一人が高齢者になると推計され、かつてない超高齢社会を迎えることから、これからは高齢者をはじめから意識した「高齢者にやさしい都市」にならなければなりません。

このようなまちは、健康な高齢者はもちろん、介護が必要な高齢者や障がい者、子育て中の親や子どもなど、誰にでもやさしいまちとなります。

高齢化に適応しながら、誰もが可能性や意欲を制約されない寛容な支えあいの社会をつくるため、まちづくりから人々の意識に至るまで、総合的なアプローチで社会システム全体を見直す必要があります。

### 戦略の 方向性

- 高齢者の社会参加の機会拡充
- 高齢者の生活の利便性向上



重点プログラム

- I エイジフレンドリーシティ<sup>※1</sup>構想の普及啓発
- II 高齢者の多様な能力の活用
- III バリアフリー<sup>※2</sup>化の促進
- IV 高齢者の交通手段の確保



※1 「高齢者にやさしい都市」という意味で、WHO(世界保健機関)のプロジェクトにおいて提唱された。  
※2 高齢者や障がい者などが生活していくうえで、障壁(バリア)となるものを取り除くこと。

## 戦略6

# 次世代の育成支援

### 背景

将来を担う次世代をはぐくみながら、市民の子育てに対する希望を実現し、元気な秋田市を次の世代に引き継ぐことは今の世代の責務であるとともに、成長の基盤となります。

晩婚化や未婚化の進行などで本市の合計特殊出生率※は依然低い水準にあり、進行する年少人口や生産年齢人口の減少は、都市経営や市民生活に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。

少子化の背景には、若者の経済的基盤が不安定な状況や、子育てしながら就業を継続することが困難な状況に加え、育児に関する不安感、教育費の負担感などが存在しています。

このような少子化を取り巻く問題を取り除き、市民の希望を実現するためには、少子化対策を未来への投資ととらえ、社会全体で子どもや子育て家庭を応援し、子どもを生き育てやすい社会を実現することが必要です。

### 戦略の方向性

- 子どもを生き育てやすい環境づくり
- 若年者の安定雇用

※ 15歳から49歳の女性の年齢別出生率を合計した指標で、一人の女性が平均して一生の間に何人の子供を産むかを表します。



重点プログラム

- I 支えあいによる子育て支援
- II 若者の自立支援

